

近現代接尾辞「者」の成立と展開

朱 曉平

要旨：現代の日中両語において「者」はヒトを表す生産的な接尾辞として広く用いられる。

「者」のそうした用法は近代以前の中国語に根差しているが、「者」の生産的な接尾辞としての使用が近代日本において確立したと考えることに関して、従来の見解は一致している。本稿では、近現代接尾辞「者」の成立と展開の過程の一端を資料の調査に基づいて考察し、その成立には中国の英華字典や洋学書ではなく、日本の蘭和辞書が重要な役割を果たしたと考えられることなどを明らかにする。

キーワード：「者」、接尾辞、訳語、蘭学、近代日中語彙交流

1. はじめに

中国語の「者」という形式は古来多様な意味・用法を有していた。「者」は日本でも漢文の文脈において中国語と同様に使われた。しかし、現代では日中両語とも、「者」の用法においてはヒトを表す接尾辞としてのそれが大きな比重を占めている。

劉(1989)が指摘するように、ヒトを表す「者」の歴史は日本語でも近代以前にさかのぼる。イエズス会の宣教師によって編纂された『日葡辞書』(1603~1604(慶長 8~9)年)を確かめてみても、「Annaixa(案内者)」「Gacumonja(学文者)」「Gonja(権者)」「Indöxa(引導者)」「Sacuxa(作者)」「Xinja(信者)」「Xuguiöja(修行者)」などの語が見られる。¹

しかし、近代以後、接尾辞「者」は生産性を飛躍的に高めた。現代日本語について言えば、例えば法律の分野には「行為者」「当事者」「債務者」「被害者」などの多くの用語があり、野球には「打者」「走者」のような用語がある。ほかにもあらゆる意味領域に「記者」「著者」「消費者」「学習者」「愛好者」のように「者」を伴う語が無数にあり、また、新語を自由に作り出すことができる。

そうした生産性の高い近現代接尾辞「者」は19世紀の日本で成立したと一般に考えられている。本稿では、資料の調査に基づいて、ヒトを表す近現代接尾辞「者」の成立と展開の過程の一端にあらためて考察を加えてみたい。

なお、ここで対象とするのはシャ(ジャ)という音形を持つ漢語接尾辞「者」である。漢字で

¹ 『日葡辞書』は日本語の語句をポルトガル語で解説した辞書であり、日本語をローマ字で表記している。本文では、土井忠生他編訳『邦訳日葡辞書』(岩波書店、1980年)を参考にして、ローマ字表記に対応する漢字表記を括弧内に付記した。

「者」と表記される接尾辞には和語のモノもあるが(「^{ぶ さ ほう の も}不^し作法者」「^{ば か も の}馬鹿者」など)、それは対象外とする。古い時代の表現には読みがはっきりしないものもあるが、『日本国語大辞典』第2版(小学館、2000～2002年)における見出し語を判定の基準とする。

2. 先行研究

まず、ヒトを表す近現代接尾辞「者」の歴史に関する従来の議論を確認する。

2.1 日本語における接尾辞「者」の一般化——劉(1989)、李(2005)、李(2006)

劉(1989)は、日本語における近現代接尾辞「者」の成立を詳しく論じた最初の論文である。劉は、主に幕末・明治初期の英和辞書、翻訳書を対象とし、明治期に「者」を用いた語の数が急速に増えたことを明らかにし、その原因として、“中国の後期洋学資料²からの影響”、“近代的な職業の種類増加”、“2字以上の漢語の増加”の3つを挙げている。

劉は、中国の後期洋学資料からの影響を証明するために、ドイツ人宣教師ヴィルヘルム・ロブシャイト(Wilhelm Lobscheid、1822～1893、中国名羅存徳)による『英華字典』(*English and Chinese Dictionary With the Punt³ and Mandarin Pronunciation*、1866～1869(同治5～8年)と、Samuel Smiles原著、中村正直^{まさなお}訳『西国立志編』(1871(明治4年)および柴田昌吉・子安峻^{まさきち たかし}編『附音插图英和字彙』(初版、1873(明治6年)とにおける「者」の使用状況を比較した。劉はそれに基づいて、一致する語が多いと判断し、『西国立志編』の訳者である中村正直は『英華字典』を参考にし、『附音插图英和字彙』は『英華字典』から非常に大きな影響を受けたと結論付けた。

劉はまた、『附音插图英和字彙』に基づく英語の原語との比較を通じて、幕末・明治初期の英和辞書や翻訳書に現れた「者」を含む複合語には英語から翻訳されたものが多く、そのような複合語の「者」は基本的に英語の“-er”、“-or”、“-ist”、“-ian”など、ヒトを表す接辞に対応していると述べている。

劉以後の研究には、李慈鎬(2005)と李秀卿(2006)がある。それぞれ異なる英和辞書を用いて考察を行い、劉にほぼ一致した見解を結論としている。

李(2005)は、『附音插图英和字彙』と、その再版である『増補訂正英和字彙』(1882(明治15年)との比較を通じて、再版において造語成分の「者」が2字漢語と結合し、大量に増補された理由について分析を試みた。李は、再版によって新たに増補された語に関して、中国語からの借用があった可能性が高いこと、新しい職種の誕生という背景があること、2字以上の漢語語基が増加したことを述べている。いずれも劉と共通する結論であるが、李はほかに独自の着眼とし

² 中国におけるキリスト教の布教は一般に、16世紀から17世紀20年代にかけてのカトリック宣教師による布教が“前期”、19世紀初頭からのプロテスタント宣教師による布教が“後期”として区別される。“後期洋学資料”はプロテスタント宣教師による著作を指す。

³ Punt³は広東を表す「本地」の広東語読みである。書名中の“With the Punt³ and Mandarin Pronunciation”は、中国語表現の発音が広東語と官話で示してあることを意味する。

て、初版の「人」が再版で「者」に交替した例が多いことを指摘し、「者」が「人」より比較的新しい語感を伴うことと、「者」は語基と単純に組み合わせることができる(「人」は語基によって「ニン」「ジン」と読み分ける必要がある)ことを「者」の普及の理由と考えている。

李(2006)は、『附音插图英和字彙』と、その再版『増補訂正英和字彙』が近世後期の中国語訳の「者」を直接に受容していると述べている。また、J.Cヘボン(James Curtis Hepburn、1815～1911)『和英語林集成』の各版(1867(慶応3)年～)における「英和の部」を対象に、ヒトを表す接尾辞「者」に重点を置いて考察を行った。李は『和英語林集成』第3版で「2字漢語+者」が急速に増えたことを明らかにし、劉と類似した2つの観点から説明を与えた。すなわち、明治期に入ってから2字以上の漢語が急増したという見方と、原語における“-er”のような接辞に対して「者」を当て、多用するようになったという見方である。例として、“patriotism, patriotic, patriot”と「愛国心、愛国の、愛国者」、「discovery, discover, discoverer」と「発見、発見する、発見者」のように、日本語の訳語は英語の接辞による名詞形や形容詞形や動詞形と平行のパラダイムを成す傾向が見られる。このように、英語の表現の型に合わせるために、「者」が“-er”などの接辞に当てられて多用されたと李は考えている。

2.2 劉(1989)ほかの検討

劉、李慈鎬、李秀卿は一致して、日本語における接尾辞「者」の一般化は中国の英華字典や洋学書からの影響によるとする。確かに、中国の英華字典や洋学書が日本で英語の訳語の創出に多大な役割を果たしたことは既に広く知られている(森岡(1965)、森岡・伊藤(1966)など)。しかし、接尾辞「者」の場合にもそうであったかどうかは事実を確かめてみなければ分からない。

劉は、中国の後期洋学資料からの影響を証明するために、『西国立志編』における日本語の「者」の用例を『英華字典』における中国語の訳語と比較して考察を行った。しかし、劉によれば、『西国立志編』で「者」を伴う表現20件に対応する『英華字典』での表現を見ると、「者」が付くものの13件のほかに、「禽学博士(ornithologist)」「曆家(mathematician)」「博金石之士(mineralogist)」「剃頭佬(barber)」「地学博士(geologist)」「首領(ringleader⁴)」「上帝教之師(theologist)」のように「者」が付かないものが7件もある。そして、訳語が一致するのは「立法者(legislator)」「包辦

⁴ 劉が掲げた訳語対照表では、“ringleader”は『西国立志編』で「有力者」と訳されているとされている。しかし、*Self-Help* (London: John Murray, Albemarle Street, 1903年)を確認したところ、“ringleader”は実際には次に示すように「叛乱ノ頭人」と訳されており、したがってその語は本来比較の対象に含めるべきものではないことになる。

Phipps, however, was not a man to be intimidated; he seized the ringleaders, and sent the others back to their duty. (*Self-Help*, p.209)

フィップス
費布士ハコレ等ニ驚クベキ怯者(オクビヤウモノ)ニアラザレバ、叛乱ノ頭人(ホットウニン)ヲ
ハウバク
縛縛(シバリ)シ、ソノ余ノモノヲシテ、退キテソノ職事ヲ執ラシメタリ。

(『西国立志編』第七編、四「^{ウィルヘルムフィップス}維廉費布士沈船ノ貨財ヲ^{サグ}搜り出ス事」)

者(contractor)」の僅か2件のみである。『英華字典』からの影響があったとしても、その程度は限定的であったと考えられる。

また、劉は堀達之助編『英和对訳袖珍辞書』(1862(文久2)年)を調べ、そこに接尾辞「者」が多く現れることを見出した。しかし、『英和对訳袖珍辞書』は蘭学者が英蘭辞書を利用して編纂したものであることが既に知られている(後述)。したがって、同辞書における訳語に注目するのであれば、蘭学資料からの影響の有無を確かめる必要がある。

接尾辞「者」は“-er”、“-or”、“-ist”、“-ian”などのヒトを表す英語の接辞を訳したものだという見方にも再考の余地がある。「者」の付く語の中にはオランダ語の訳語として作られたものもあるかも知れないし、そもそも「者」があらゆる場合に英語(またはオランダ語)の接辞の翻訳であるわけではない。

2.3 日本語から中国語への影響——沈(1994)、劉(2009)など

近現代接尾辞「者」に関する日本語から中国語への影響の問題は本稿が目的とする考察の範囲を超えるが、従来の議論には以下のようなものがある。

北京師範学院中文系漢語教研組編著(1959)(以後、その書名『五四以来漢語書面語言的變遷和發展』の一部を取って『五四』と呼ぶ)は「者」を含む現代中国語の接尾辞、接頭辞について、それらは日本語の翻訳における訳語の影響を受けたものであると述べている。

沈(1994)は、『五四』のその記述を取り上げ、日本語からの影響の程度は接辞によって異なると指摘し、「者」を含んだ多数の接辞については“中国語における接辞化の歩みは、確かに日本の訳語の流入によって加速されたが、そこにはまだ中国人独自の努力がある”と述べている。すなわち、19世紀末に日本語の影響を受け始める前から中国語には接尾辞ないしその前段階としての「者」の使用が既にあったということである。

劉(2009)は、王(1944)に言及し、王は「者」を“新興の欧化記号”の1つとしたが、日本語との関係について触れていないと述べている。また、『五四』の記述については、「者」を含む多くの造語成分の接辞化が日本の訳語からの影響を受けていることを指摘しただけで、それが具体的にどのような影響であったのかを究めていないと述べている。

「者」に関する日中両語の関係は本稿で論じる用意はないが、調査によって19世紀末以前の中国の資料に見出すことのできた「者」の用例を稿末に資料として掲げる。

3. 近現代接尾辞「者」の成立

ヒトを表す接尾辞「者」は、劉(1989)が考察の対象とした資料(『英和对訳袖珍辞書』と『西国立志編』)に先行する蘭学者の著作にも現れる。そして、実際、『英和对訳袖珍辞書』における「者」の使用はそうした蘭学者の著作に基づくものであった。以下においてそのことを明らかにする。

3.1 『^{アングリア}諳厄利亜語林大成』(1814(文化11)年)における「者」の使用

江戸時代後期のオランダ通詞本木正栄らは、幕命でヤン・コック・ブロンホフ(Jan Cock Blomhoff)に英語を学び、1814(文化11)年に、日本で最初の英和辞書『諳厄利亜語林大成』を編纂した。

その中でも、「患者」「作者」「術者」「著作者」「兌銀者」「筆者」などの「者」が付く語がいくつか現れる。

bank.	wisfelbank. (外貨両替)	^{リヤウガヘザ} 兌銀舖
^{ベンク} banker.	bankier. (銀行家)	<u>^{リヤウガヘスルヒト}兌銀者</u>

「兌銀舖」「兌銀者」に添えられた振り仮名「リヤウガヘザ」「リヤウガヘスルヒト」は訳語の読みではなく、その意味を説明するものである。『諳厄利亜語林大成』における訳語の振り仮名は必ずしも漢字表記の読みを表すわけではなく、ほかにも例えば「^{シゴト}操作スル」(to labour)、「^{ゴトスルヒト}業者」(work man)のような例がある。「兌銀者」を読むとすればダギンシャと読まれたのではないかと考えられる。

このうち「兌銀者」という語は、調査の限り、先行する日中の資料中に見出せない。他方、「兌銀」や「兌銀舖」が日本語に存在したことは比較的容易に資料的に確認できる。証明は難しいが、「兌銀者」は「兌銀」や「兌銀舖」をもとにして、bankerの訳語として新たに作られた表現である可能性がある。

3.2 『和蘭字彙』(1855(安政2)年)における「者」の使用

1816(文化13)年に、オランダ商館長ヘンドリック・ドーフ(Hendrik Doeff)が、長崎通詞らと協力してF. Halma原著の蘭和辞典『道訳法^{ハルマ}児馬』(通称「長崎ハルマ」)を編纂した。そして、40年後の1855(安政2)年に、桂川甫周^{ほしゅう}(1826~1881)がそれを改訂し、『和蘭字彙』と題して出版した。

『和蘭字彙』に現れる「者」を用いた語の中には、「記者」「窮理学者」「芸術者」「神学者」「創造者」「著述者」「天文者」「文学者」のような近代的な概念を表すものが少なくない。数例を挙げれば次の通りである。以後、オランダ語の引用には小字で日本語訳を添える。また、引用中の漢字は、日本語、中国語ともに原則として現代日本の字体による。

boekschrijver, z.m. schrijver. (本の作家、男性名詞、ライター) 記者又著述者
 godgeleerdheid, z.v. kennis van god. (神学、女性名詞、神の知識) 神学又神道
 godgeleerde, z.m. godsgeleerde. (神学者、男性名詞、神学者) 神学者

letterkunst, z.v. letterkunst, spraakkunst. (文学芸術、女性名詞、文芸、スピーチアート) 文学
 letterkonsteaar, z.m. spraakkundige. (文学芸術家、男性名詞、スピーカー) 文学者

maker, maaker. z.m. schepper, werkmeester. (メーカー、メーカー、男性名詞、創造者、ワーク

マスター) 創造者又作ル人

meester, kunstenaar, hetzj schilder, beeldhouwer, enz. (マスター、アーティスト、画家、彫刻家など) 芸術者 画師仏師其外右ノ類ノ細工人ヲ云

natuurkennis, z.v. natuurkunde. (自然知識、女性名詞、物理) 窮理学

natuurkenner, z.m. natuurkundige. (自然主義者、男性名詞、物理学者) 窮理学者

planeetkenner, z.m. sterrekijker, sterrekundige. (惑星の愛好家、男性名詞、天文家、天文家) 天文者

当時、ヒトを表すオランダ語の名詞を「者」を用いて訳し、新語を生み出す習慣が形成されつつあったと考えられる。

3.3 『英和对訳袖珍辞書』(1862(文久2)年)における「者」の由来

劉(1989)が考察に用いた『英和对訳袖珍辞書』は、英蘭辞書である H. Picard *A New Pocket Dictionary of the English and Dutch Languages* 第2版(1857年、以下 *Picard Dictionary* と略す)を底本とし、そのオランダ語部分を日本語に訳すという方法によって編集されたことが早く岩崎(1935)によって明らかにされている。

「者」を伴う訳語の事例について『英和对訳袖珍辞書』における英語から日本語への翻訳の状況を確認してみても、現に *Picard Dictionary* におけるオランダ語訳を媒介とし、それに対応する『和蘭字彙』の訳語がそのまま使われている場合が少なくない。例えば、“Divine”という見出し語の場合は、*Picard Dictionary* における“godgeleerde”というオランダ語訳を介し、『和蘭字彙』に頼って「神学者」という訳語が与えられている。

Divine, s. godgeleerde, m. (神学者、男性名詞) (*Picard Dictionary*)

godgeleerde, z.m. godseleerde. (神学者、男性名詞、神学者) 神学者 (『和蘭字彙』)

Divine, s. 神学者 (『袖珍辞書』)

同様の例をさらにいくつか挙げれば次の通りである。最後の“Newcomer”の例では、「成長者」に添えられた振り仮名も一致している。⁵

Preacher, s. predikant, prediker, m. (説教師、説教者、男性名詞) (*Picard Dictionary*)

predikant, z.m. leeraar, prediker. (牧師、男性名詞、先生、説教者) 説法者 (『和蘭字彙』)

Preacher, s. 説法者 (『袖珍辞書』)

Scamp, s. schelm, schurk, m. (悪魔、悪役、悪い少年、男性名詞) (*Picard Dictionary*)

schelm, z.m. guit, een eerloos mensch. (悪魔、男性名詞、無理な男) 悪逆者 (『和蘭字彙』)

⁵ 「兌銀者」の例と同様に、「成長者」に添えられた振り仮名は意味の説明で、セイチョウシヤと読まれたものと解釈して例に含めた。

Scamp, s. 悪逆者 (『袖珍辞書』)

Newcomer, s. aankomeling, m. (新来者、男性名詞) (Picard Dictionary)

aankomeling, z.m. en v. jongeling of meisje. (新来者、男性名詞・女性名詞、少年または少女)

オイトツモノ
成長者 (『和蘭字彙』)

Newcomer, s. フイタツモノ
成長者 (『袖珍辞書』)

因みに、『袖珍辞書』において、次のように複数の見出し語に同一の日本語訳が与えられている場合がある。これは、*Picard Dictionary* において、3語に“schrijver(作家、ライター)”という共通のオランダ語訳が与えられていることによる。

Chirographer, s. 筆記者

Penman, s. 筆記者

Penner, s. 筆記者

また、『英和対訳袖珍辞書』において接尾辞「者」が英語の“-er”、“-or”、“-ist”、“-ian”などのヒトを表す接辞と対応している場合が多いことは事実であるが、次のように接辞には対応していないものもある。

School-man, s. 博学者

Singing-boy, s. 奏樂者⁶

これらはそれぞれオランダ語の“school-geleerde(学校の学者)”、“koorknaap(少年合唱団)”を介して訳されているが、オランダ語との関係においても「者」は接辞の翻訳になってはいない。

3.4 中村正直訳『西国立志編』(1871(明治4)年)の訳語の根拠

劉(1989)は、『西国立志編』は中村正直が『英華字典』を参照して翻訳したと言う。しかし、その訳文を原著 *Self-Help* の原文と照らし合わせて確かめてみると、そのように言うことはむしろかしいことが分かる。

第1に、劉自身の調査の結果からも、『西国立志編』の訳語には『英華字典』の訳語に一致しないものが非常に多いことが分かる。

第2に、『西国立志編』において、「者」のほか、「家」「士」「師」「官」など「ヒト」を表す多くの漢語接尾辞が見られる。そして、原文の同一の語が文脈に応じて異なる接尾辞を用いて訳し分けられていると見られる場合もある。例えば、“philosopher”が単なる職業名の1つとして示されている次の第1の例では「理学者」と訳されているが、特定の“哲学の大家”を問題とする第2の例では「理学家」と訳されている。

Michael Faraday, the son of a blacksmith, was in early life apprenticed to a bookbinder, and worked at that trade until he reached his twenty-second year : he now occupies the very first rank as a

⁶ 『英和対訳袖珍辞書』では誤って「奏学者」と記されているが訂正して引用した。

philosopher, ……

(*Self-Help*, p.10)

ミカイルフアラデイ

弥開爾発拉^{第八}、打鐵匠(カヂヤ)ノ子ニシテ、二十二歳ニ至ルマデ、釘書匠(ホントヂヤ)ノ徒弟(デシ)トナリ、ソノ業ヲ為セリ、今ハ上等ノ理学者トナリテ、(後略)

(第一編、十三「貧賤ヨリ出タル豪傑ノ人」)

It was a maxim of Dr. Young, the philosopher, that “Any man can do what any other man has done;”

……

(*Self-Help*, p.100)

理学家^{ヨング} 雍ノ格言ニ、

「凡ソ人、他人ノ既ニ做得タルコトハ、必ズ做得ベシ」ト云ヘリ、(後略)

(第四編、十一「学士 雍ノ格言、并ニソノ故事」)

第3に、『西国立志編』では、原文の一語を説明的な句として訳している場合も多い。例えば、第一編の次の箇所では“inventors and discoverers”を「新器新術ヲ発明スル人」、「manufacturers」を「品物ヲ製造スル人」と訳している。

Patient and persevering labourers in all ranks and conditions of life, cultivators of the soil and explorers of the mine, inventors and discoverers, manufacturers, mechanics and artisans, poets, philosophers, and politicians, all have contributed towards the grand result, one generation building upon another’s labours, and carrying them forward to still higher stages. (*Self-Help*, p.5)

忍耐(シンボウ)⁷恒久(キナガ)ノ心ヲ以テ職事(シゴト)ヲ勉強スル人、尊卑貴賤ノ別ナク、〔土地ヲ耕墾(ホリカヘス)スル人、礦山(カナヤマ)ヲ撿尋(サガス)スル人、新器新術ヲ発明スル人、工匠ノ人、品物ヲ製造スル人⁸、詩人、理学者、政学家〕コレ等ノ人、古ヨリ今ニ至ルマデ、次第ニ工夫ヲ積メルモノ、合湊(アツマリ)シテ盛大ノ文化ヲ開ケルナリ。

(第一編、七「貴賤ニ限ラズ、勉強忍耐(ホネヲリシンボウ)ノ人、世ニ功アル事」)

後の第二編では、“inventors”を「創造者」、「manufacturers」を「製造者」という複合語によって訳している。しかし、『英華辞典』における“inventors”の訳語は「作手、制作者、原造者、始作之人」、「manufacturers」の訳語は「作者、作工、工師、匠人」であり、『西国立志編』の訳語はそれらには一致しない。

以上のことから、『西国立志編』の翻訳に『英華字典』の訳語がどれだけ利用されたかは明らかではない。むしろ、訳者自身の判断によって訳語が作られた場合が多いのではないかと考えられる。

⁷ 縦書きの『西国立志編』における振り仮名には、語の右に書かれて読み方を示すものと、左に書かれて意味を示すものがある。ここでは、右の振り仮名は語の上にルビとして、左の振り仮名は語の後ろに括弧で囲んで記す。

⁸ 訳文の「工匠ノ人、品物ヲ製造スル人」は、原文の“manufacturers, mechanics and artisans”の順を入れ替えた結果と見られる。

4. 近現代接尾辞「者」の展開

近現代接尾辞「者」の展開、普及は長期間にわたって実現した現象であり、その全容の解明は容易な課題ではない。ここでは、その全体的な流れについて、各種資料の限られた範囲の調査に基づく推定を述べる。

辞書類において「者」が多く現れるようになってからも、直ちにそれが社会に普及したわけではなかった。明治期以前には「者」より「人」が多用される傾向があった。

例えば、福沢諭吉『西洋事情』初編(1866(慶応2年))には「者」が付く新語が見られず、一方、「介抱人」「選挙人」「名代人」「謀反人」などの「人」を用いた新語が使われている。⁹ 劉が考察に用いた鈴木唯一訳『英政如何』(1868(慶応4年))でも、接尾辞「者」の付く語は「執心者」「案内者」などのわずかに数例しかなく、「監案人」「支配人」「証拠人」「信仰人」「惣代人」「入札人」「名代人」など「人」を多用している。

しかし、明治期に入ると、知識人の西洋先進文化を吸収しようとする意志と、一般庶民の英語を学ぼうとする熱意とによって、西洋の学問を紹介する書籍や英語の辞書や教科書が多く出版されるようになった。そうした状況を背景として、明治初期から「者」の使用は増え続けた。

特に、明治中期になると、「者」の使用は急速に増えていった。徳富蘇峰『将来之日本』(1886(明治19年))、『新日本之青年』(1887(明治20年))を開いてみれば、「者」による新語が数え切れないほど見出される。専門的な表現だけでなく、「喫煙者」「卒業者」「就職者」「説明者」「退会者」「旅行者」のような身近な言葉も見られる。因みに、当時、「～学者」「～論者」「～者流」のような形式も多く見られ、当時の日本社会が西洋による近代的な文化から激しい刺激を受けて、様々な論説が起こったことを示唆している。

明確な結論を得るにはさらに調査を要するが、「者」はおそらく明治中期ごろまでには一般の日本語への定着が進んだものと考えられる。

なお、近現代接尾辞「者」に関する従来の研究においては、1字漢語に「者」を加えた語は注目されてこなかった。しかし、例えば「記者」という語は筆者の確かめた19世紀末以前の中国資料には現れず¹⁰、『佩文韻府』の見出しにもないが、『和蘭字彙』、足立梅景『英吉利文典字類』(1866(慶応2年))、阿部友之進『挿訳英吉利文典』(1867(慶応3年))、『官板海外新聞』第5巻(1863(文久3年))に見られる。ほかにも、「著者」「訳者」「編者」「議者」「訟者」「業者」などの2字語も同様に日本語における接尾辞「者」の一般化の過程の中で作られた新語である可能性が

⁹ 福沢は後年の『世界国尽』(1869(明治2年))では「謀反者」と書いている。

¹⁰ 1872(同治11)年に創刊された中国の日報『申報』では、1語と見られる「記者」の語は1893(光緒19)年に初めて現れる。使用の文脈は日本に関わる記事である。

翌日東京各日報社記者又宴於芝山紅葉館。(翌日、東京各日報社の記者は又芝山紅葉館で宴会を開く。)
(「公謙志盛」『申報』1893(光緒19)年7月28日)
その後の数年間も「記者」の用例は少なく、日本に関わる記事における使用に限られた。

ある。

5. おわりに

ヒトを表す日中両語の近現代接尾辞「者」の成立と展開について資料に基づく考察を試みた。生産性の高い接辞「者」の成立の原点は、幕末・明治初期の日本における英和辞書の編纂に用いられた蘭和辞書の訳語にあると考えられる。それ以後の「者」の展開、普及の過程についてはまだ不十分なことしか分かっていない。今後の課題としたい。

(資料) 19世紀中国の資料における「者」

19世紀末以前の中国の資料における「者」の用例や記載のうち、接尾辞の例と見得る可能性のあるものを以下に記す。ただし、個々の例における「者」が接尾辞と言えるかどうかは必ずしも明らかではない。

まず、西洋人宣教師による英華字典類に記載されたものとしては以下のようなものがある。中国語の発音などの記述は省いて引用する。

COMPILER of books, 編修者.

DONOR, a bestower, 施与者; 恩主; 恩賜者; 賞賜者; 恩惠之人.

EXPERT scholar, 善学者; 師逸而功倍.

LAWGIVER, 設律者; 立法的.

LEADER, 倡率的人; 率領者; 首領; 表率; 指引者也; 引導的.

(Robert Morrison *A Dictionary of the Chinese Language in Three Parts, Part III: English and Chinese*, 1822(道光2)年)

BUILDER, 承建者.

CONTROLLER, 管治者.

HORSEMAN, 善騎者.

LOOKER-ON, 傍觀者.

(Samuel Wells Williams *An English and Chinese Vocabulary in the Court Dialect* 『英華韻府歷階』、1844(道光24)年)

AUTHOR, originator 開創者, 始造者; inventor, 新造者, 製作者, 首造者, 初造者; (後略)

GUIDE, 引路之人, 引導者; (後略)

HISTORIOGRAPHER, 記事者; 太史.

TUTELAR, 保護者.

(Walter Henry Medhurst *English and Chinese Dictionary* 『英華字典』、1847~1848(道光27~28)年)

Accusant, 原告者, 控告者.

Editor, a publisher, 作者, 出者; (後略)

Inventor, 作手, 制作者, 原造者, 始作之人.

Testifier, 証者, 作証者, 証人.

(Wilhelm Lobscheid *English and Chinese Dictionary with the Punti and Mandarin*

Pronunciation 『英華字典』、1866~1869(同治5~8)年)

ロブシャイトは中国語文法の解説において、「者」を伴う「作亭者」「行善者」のような表現が「~する人(たち)」と訳せることを次のように説明している。中国語の発音表記をローマ字で記した部分は略して引用する。

作亭者 stands for—作亭之人 the person who made it. The student will soon be able to find out whether it should be translated—the builder, maker &c., or by the Demonstrative and Relative Pronouns, for we may almost always translate it in both ways. The rule is simply this: with an Adjective forms a Noun, as: 徳者 virtue; with a Verb, however, and when preceded by the object, we better translate it by *that which*, or *those who*, as: 行善者 those who practice virtue.

(Wilhelm Lobscheid *Grammar of the Chinese language in Two Parts, Part II,*

1864(同治2)年)

中国人によって著された初期の英語学習書である鄭仁山『華英通語』(1849(道光29)年)には「者」を伴う職業名は現れないが、子卿『華英通語』(1855(咸豊5)年)には少数ながらそれが現れる。

Moneychanger 找銀者

Shroff 看銀者

Engineer 絞車者 (子卿『華英通語』「人倫類」、1855(咸豊5)年)

中国人による最初の英華辞典である鄭其照の『字典集成』にも「者」の使用が見られる。次に用例の一部を示す。

人類 承賃者 Lessee

士農 博学者 Learned man

工商 買貨者 Buyer

九族親誼 同勞者 Fellow-labourer (鄭其照選著『字典集成』「雜字」、1868(同治7)年)

譚達軒による英語の辞書と学習書にも「者」を含む項目は多い。次にその一部を示す。

Adjutor, a helper, 扶助者, 輔助者.

Discoverer, one who discovers. 看出者, 睇出者, 尋出者.

Editor, one who prepares for publication, 作者, 撰者, 校訂者, 主筆, 新報主筆.

Translator, one who translates, 繙訳者.

Writer, one who writes; an author, 繕写者, 書吏, 書辦.

(譚達軒『華英字典彙集』、1875(光緒1)年)

文士類	Abbreviator, <u>写減筆者</u> . Chronologist, <u>作史者</u> . Commentator, <u>作註者</u> . Geographer, <u>考地理誌者</u> .
工匠類	Worker, <u>做工者</u> .
商賈類	Auctioneer, <u>投貨者</u> .
人類	Chemist, 製薬人、 <u>精化学者</u> . Editor, <u>作文者</u> 、主筆. Predictor, <u>預言者</u> . Prosecutor, <u>控告者</u> . Protector, <u>保護者</u> .
僧尼類	Cenobite, <u>修道者</u> . (譚達軒『通商指南』、1875(光緒1)年)

引用文献

- 岩崎克己(1935)『柴田昌吉伝』東京:岩崎克己.
- 沈国威(1994)『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容—』東京:笠間書院.
- 森岡健二(1965)「訳語形成期におけるロブシャイド英華字典の影響」『東京女子大学附属比較文化研究所紀要』19:61-102.
- 森岡健二・伊藤みゆ子(1966)「訳語形成期におけるロブシャイド英華字典の影響Ⅱ」『東京女子大学附属比較文化研究所紀要』21:113-159.
- 李慈鎬(2005)「『増補訂正英和字彙』における造語成分「者」」『早稲田日本語研究』14:37-48, 早稲田大学日本語学会.
- 李秀卿(2006)「『和英語林集成』に見られる「ひと」を表す漢語系接辞—「英和の部」における増補様相—」『日本研究』27:223-242, 韓国外国語大学校日本研究所.
- 劉凡夫(1989)「近代漢語系接尾辞「～者」の展開—幕末・明治初期を中心に—」『国語学研究』29:11-19, 東北大学文学部.
- (2009)「近代漢語系接尾辞「～者」の展開—中日間の語彙交渉を中心に—」『以漢字為媒介的新詞傳播—近代中日間詞彙交流的研究』大連:遼寧師範大学, pp. 321-347.
- 北京師範学院中文系漢語教研組編著(1959)『五四以来漢語書面語言的變遷和發展』北京:商務印書館, pp. 107-115.
- 王力(1944)『中国語法理論』重慶:商務印書館, pp. 302-305.